

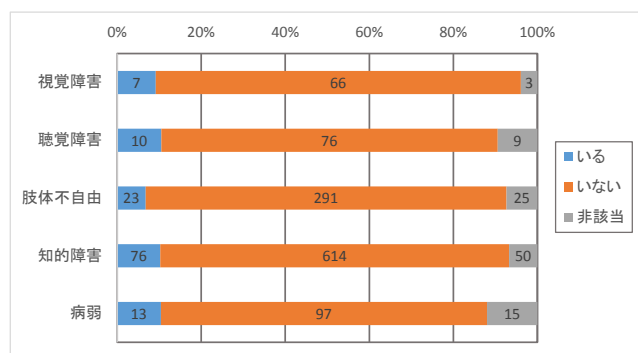
## 報告 5 進路福祉

はじめに

就職や就職にかかわる機関に関する調査を行い、それらとの連携についての分析を行った

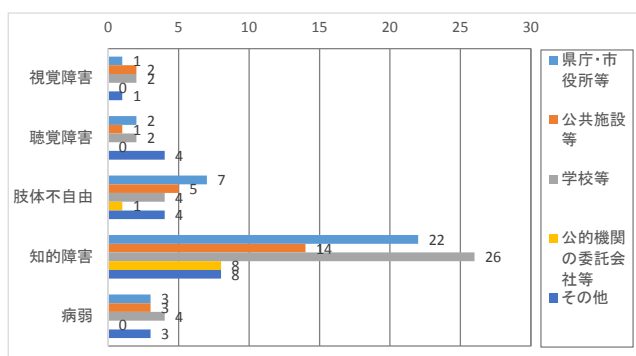
【69】平成 27 年度中に公的機関に就職（福祉就労は除く）した生徒はいますか。《単一選択》

	いる	いない	非該当
合計	96	897	76
%	(9)	(83.9)	(7.1)
視覚障害	7	66	3
%	(9.2)	(86.8)	(3.9)
聴覚障害	10	76	9
%	(10.5)	(80)	(9.5)
肢体不自由	23	291	25
%	(6.8)	(85.8)	(7.4)
知的障害	76	614	50
%	(10.3)	(83)	(6.8)
病弱	13	97	15
%	(10.4)	(77.6)	(12)



【70】就職した公的機関はどこですか。《複数選択可》

	県庁・市役所等	公共施設等	学校等	公的機関の委託会社等	その他
合計	31	17	29	9	13
%	(33)	(18.1)	(30.9)	(9.6)	(13.8)
視覚障害	1	2	2	0	1
%	(16.7)	(33.3)	(33.3)	(0)	(16.7)
聴覚障害	2	1	2	0	4
%	(22.2)	(11.1)	(22.2)	(0)	(44.4)
肢体不自由	7	5	4	1	4
%	(33.3)	(23.8)	(19)	(4.8)	(19)
知的障害	22	14	26	8	8
%	(30.1)	(19.2)	(35.6)	(11)	(11)
病弱	3	3	4	0	3
%	(23.1)	(23.1)	(30.8)	(0)	(23.1)



■その他内容

【視覚障害】

自衛隊

【聴覚障害】

独立行政法人、就労支援センター／自衛隊／国立印刷局

【肢体不自由】

特例子会社／診療所／社会福祉協議会／自衛隊

【知的障害】

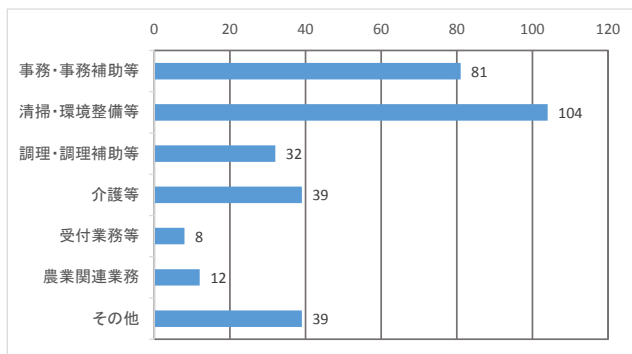
郵便局／大曲公共職業安定所／卒業生がまだ出していない／図書館／診療所／社会福祉協議会／自衛隊／国立大学法人／公立病院

【病弱】

特例子会社／自衛隊／高等部なし

【71】 就職先での仕事内容をお答えください。《複数選択可》

	事務・事務補助等	清掃・環境整備等	調理・調理補助等	介護等	受付業務等	農業関連業務	その他
合計	70	85	29	28	7	11	27
%	(49.6)	(60.3)	(20.6)	(19.9)	(5)	(7.8)	(19.1)
視覚障害	3	2	0	1	0	1	5
%	(33.3)	(22.2)	(0)	(11.1)	(0)	(11.1)	(55.6)
聴覚障害	5	2	1	2	0	1	7
%	(38.5)	(15.4)	(7.7)	(15.4)	(0)	(7.7)	(53.8)
肢体不自由	19	15	2	7	2	0	6
%	(57.6)	(45.5)	(6.1)	(21.2)	(6.1)	(0)	(18.2)
知的障害	49	78	29	26	6	10	18
%	(44.1)	(70.3)	(26.1)	(23.4)	(5.4)	(9)	(16.2)
病弱	5	7	0	3	0	0	3
%	(33.3)	(46.7)	(0)	(20)	(0)	(0)	(20)



■ その他内容

【視覚障害】

陸上自衛隊候補生／理療業務／実習助手／ヘルスキーパー／あんまマッサージ指圧師 鍼灸師／鍼きゅう師

【聴覚障害】

陸上自衛隊候補生／製造業／実習助手／官報の入力、検品／印刷の補助業務

【肢体不自由】

陸上自衛隊候補生／販売／製造業／食品製造、接客販売、工業系作業員／実習助手／サービス業・小売業・物流

【知的障害】

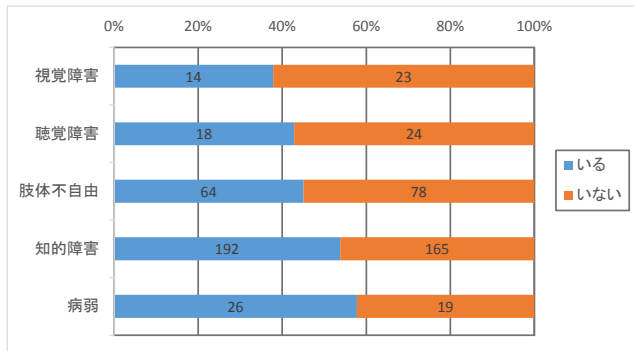
臨時学校業務員／陸上自衛隊候補生／品出し、接客／販売補助／販売、引越し、洗車、出荷補助／店舗業務、クリーニング／大型小売店／接客販売、工業系作業員／製造業（組立て、解体）／図書管理業務／食品製造、商品管理／実習助手／学校技能員／サービス業・小売業・物流

**【病弱】**

陸上自衛隊候補生／実習助手

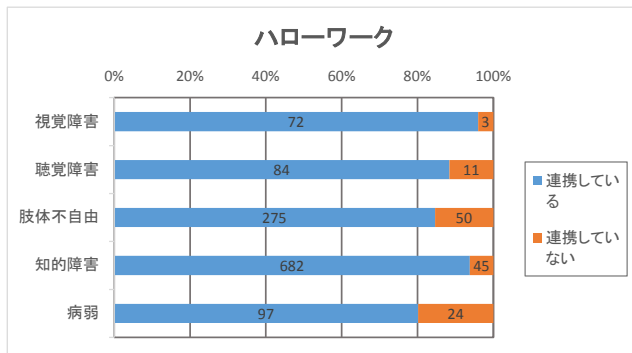
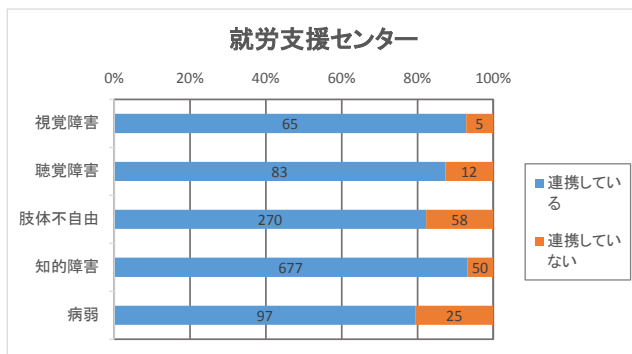
【72】 公的機関で実習を行っていますか。《単一選択》

	いる	いない
合計	241	244
%	(49.7)	(50.3)
視覚障害	14	23
%	(37.8)	(62.2)
聴覚障害	18	24
%	(42.9)	(57.1)
肢体不自由	64	78
%	(45.1)	(54.9)
知的障害	192	165
%	(53.8)	(46.2)
病弱	26	19
%	(57.8)	(42.2)



【73】 就労支援センターやハローワークと連携していますか。《単一選択》

	就労支援センター		ハローワーク	
	連携している	連携していない	連携している	連携していない
合計	913	130	931	115
%	(87.5)	(12.5)	(89)	(11)
視覚障害	65	5	72	3
%	(92.9)	(7.1)	(96)	(4)
聴覚障害	83	12	84	11
%	(87.4)	(12.6)	(88.4)	(11.6)
肢体不自由	270	58	275	50
%	(82.3)	(17.7)	(84.6)	(15.4)
知的障害	677	50	682	45
%	(93.1)	(6.9)	(93.8)	(6.2)
病弱	97	25	97	24
%	(79.5)	(20.5)	(80.2)	(19.8)



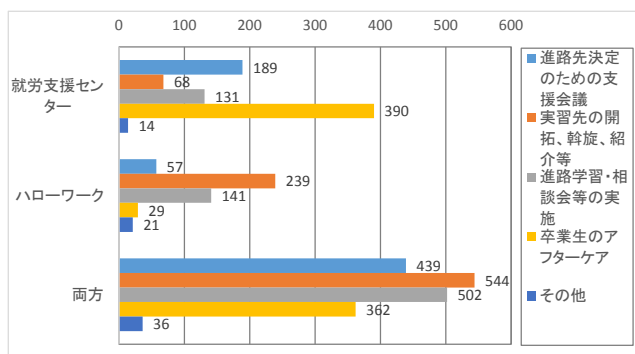
【74】 就労支援センター、ハローワークとの連携内容をお答えください。《複数選択可》

就労支援センター

	進路先決定のための支援会議	実習先の開拓、斡旋、紹介等	進路学習・相談会等の実施	卒業生のアフターケア	その他
合計	189	68	131	390	14
%	(27.6)	(8)	(16.9)	(49.9)	(19.7)
視覚障害	13	6	7	22	0
%	(27.1)	(9.1)	(12.3)	(40)	(0)
聴覚障害	17	6	7	29	1
%	(27.9)	(7.7)	(10.9)	(42)	(25)
肢体不自由	56	25	47	107	6
%	(26.8)	(10.1)	(20.4)	(49.5)	(23.1)
知的障害	117	34	95	300	10
%	(22.7)	(5.4)	(16.3)	(49.9)	(20)
病弱	19	7	11	39	3
%	(25.7)	(8)	(14.1)	(50.6)	(27.3)

ハローワーク

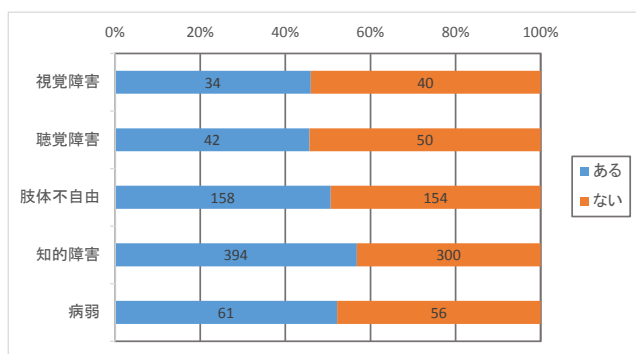
	進路先決定のための支援会議	実習先の開拓、斡旋、紹介等	進路学習・相談会等の実施	卒業生のアフターケア	その他
合計	57	239	141	29	21
%	(8.3)	(28.1)	(18.2)	(3.7)	(29.6)
視覚障害	5	24	19	7	3
%	(10.4)	(36.4)	(33.3)	(12.7)	(60)
聴覚障害	6	24	19	6	1
%	(9.8)	(30.8)	(29.7)	(8.7)	(25)
肢体不自由	16	52	37	2	6
%	(7.7)	(21)	(16.1)	(0.9)	(23.1)
知的障害	42	171	90	14	14
%	(8.1)	(27.3)	(15.4)	(2.3)	(28)
病弱	5	17	10	2	4
%	(6.8)	(19.3)	(12.8)	(2.6)	(36.4)



就労支援センターとの連携では、「卒業後のアフターケア」を目的とすることが多く、ハローワークは「実習先の開拓、斡旋、紹介」といった実際に就職する目的が多い。用途に応じて使い分けが行われている。

【75】 就労支援センター、ハローワーク等以外に企業就労先の開拓を支援する機関等がありますか。《  
 単一選択》

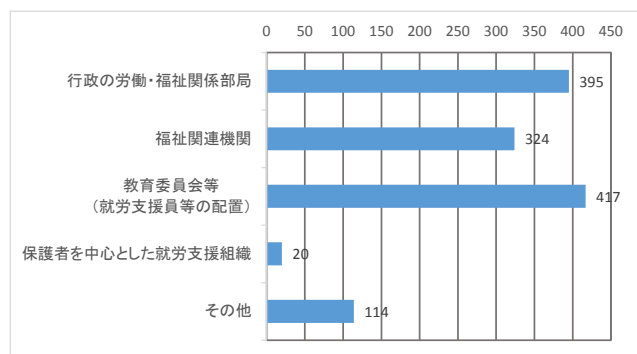
	ある	ない
合計	537	462
%	(53.8)	(46.2)
視覚障害	34	40
%	(45.9)	(54.1)
聴覚障害	42	50
%	(45.7)	(54.3)
肢体不自由	158	154
%	(50.6)	(49.4)
知的障害	394	300
%	(56.8)	(43.2)
病弱	61	56
%	(52.1)	(47.9)





【76】 企業就労先の開拓を支援している機関をお答えください。《複数選択可》

	行政の労働・福祉関係部局	福祉関連機関	教育委員会等(就労支援員等の配置)	保護者を中心とした就労支援組織	その他
合計	299	241	317	20	93
%	(50.3)	(40.5)	(53.3)	(3.4)	(15.6)
視覚障害	18	23	18	0	6
%	(42.9)	(54.8)	(42.9)	(0)	(14.3)
聴覚障害	20	16	22	2	10
%	(44.4)	(35.6)	(48.9)	(4.4)	(22.2)
肢体不自由	97	87	97	2	21
%	(53)	(47.5)	(53)	(1.1)	(11.5)
知的障害	229	169	245	15	66
%	(52.4)	(38.7)	(56.1)	(3.4)	(15.1)
病弱	31	29	35	1	11
%	(47)	(43.9)	(53)	(1.5)	(16.7)



■その他内容

【視覚障害】

同窓会／就労支援コーディネーター(県配置)／視覚障害者の職能団体／国家資格が取得できなかった生徒に対し、相談支援事業所と HW と連携して職場開拓をした。／県特別支援学校進路指導部会／アスナビ

【聴覚障害】

栃木労働局／東京聴覚障害者自立支援センター／直接／中小企業同友会／筑波大学学校支援課／職親会(地域の企業集団)／就労支援コーディネーター(県配置)／就職コーディネーター／教育委員会等(就労支援員等の配置)／学校独自／各特別支援学校就労支援コーディネーター連絡協議会

【肢体不自由】

保護者・福祉・学校・委員会が共に開拓を支援する組織／中小企業同友会／中小企業家同友会／地域の障害者就労支援連絡会／地域の施設並びに事業所、賛同者で構成する就労支援連絡会／多摩地区の就業促進ブロック会(進路担当の協議会)／他の特別支援学校からの紹介／石川障害者職業能力開発校／進

路担当教員の進路先開拓／職業センター／就労支援コーディネーター(県配置)／自立支援協議会就労支援部会／自立支援協議会／自立支援会議／市民講師、企業同士の紹介など／三沢地区障害者就労支援連絡会／県教育委員会から派遣されている自立支援推進員／県から派遣されるジョブコーチ／学校間連携／ロータリークラブによる実習可能な会員企業の情報提供等／ハローワーク／NPO 神奈川県雇用部会

### 【知的障害】

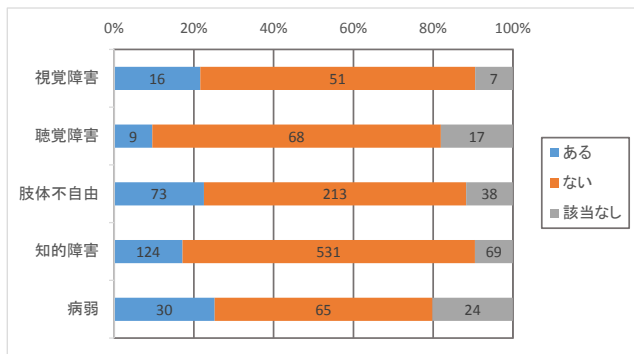
労働局／民間派遣会社／民間企業が本校を支援する「鶴高養現場実習支援の会」からご支援いただいている。／保護者・福祉・学校・委員会が共に開拓を支援する組織／福島職業能力開発研究協議会（任意団体）／中小企業同友会／中小企業家同友会・商工会議所 など／中小企業家同友会，青年会議所／地域の施設並びに事業所、賛同者で構成する就労支援連絡会／大分県中小企業同友会／石川障害者職業能力開発校／静岡県産業部委託事業／青年会議所／青森地区障害者就労支援連絡会／進路対策研究協議会／職業センター／障害者雇用サポートセンター／商工会等／商工会／就労支援コーディネーター（楯岡特別支援学校）／就労支援コーディネーター(県配置)／就労移行支援事業所／就職コーディネーター／自立支援協議会就労支援部会／自立支援会議／市民講師、企業同士の紹介など／市商工振興課／産業人材育成センター／三沢地区障害者就労支援連絡会／埼玉中小企業同友会／高等技術専門校、市自立支援協議会、市就労支援ネットワーク会議／高等技術専門校／行政から委託された事業所（ヒューマンリソシア株式会社）／雇用連絡協議会／雇用サポートセンター／県立特別支援学校に配置されている就労コーディネーター／県立特別支援学校と連携を取りながら情報交換をしている／県内他特別支援学校／県教育委員会から派遣されている自立支援推進員／県教委就労支援フォーラム／県委託の就労支援コーディネーター／県委託の就職コーディネーター／県から派遣されるジョブコーチ／近隣特別支援学校連絡協議会／求人広告／企業団体／企業情報などのとりまとめ校からの情報共有／学校間連携／各特別支援学校就労支援コーディネーター連絡協議会／各市自立支援協議会／会津地域雇用連絡協議会／一般社団法人／ハローワーク／デュアルシステム推進会議，巣立ちのネットワーク／グッド・カンパニー・クラブ等／おおさか人材雇用開発人権センター／あいべつ校協力会、職親会／NPO 法人障害者雇用部会／NPO 法人／NPO 神奈川県雇用部会／C-STEP（人材雇用開発人権センター）／（社）おおさか人材雇用開発人材センター（C-STEP）

### 【病弱】

福祉・企業を中心とした「就労を拓く会」／富山県中小企業家同友会／病院／中小企業同友会／地域の障害者就労支援連絡会／他校のキャリアサポーター／就労支援コーディネーター(県配置)／滋賀の縁創造実践センター／県教育委員会から派遣されている自立支援推進員／県から派遣されるジョブコーチ／デュアルシステム推進会議，巣立ちのネットワーク

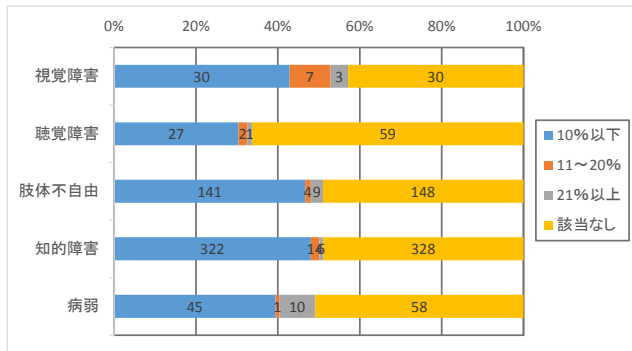
【77】 福祉就労先の不足により、進路が決まらないことがありますか。(在宅等) 《単一選択》

	ある	ない	該当なし
合計	170	749	116
%	(16.4)	(72.4)	(11.2)
視覚障害	16	51	7
%	(21.6)	(68.9)	(9.5)
聴覚障害	9	68	17
%	(9.6)	(72.3)	(18.1)
肢体不自由	73	213	38
%	(22.5)	(65.7)	(11.7)
知的障害	124	531	69
%	(17.1)	(73.3)	(9.5)
病弱	30	65	24
%	(25.2)	(54.6)	(20.2)



【78】進路が決まらない生徒の割合をお答えください。《単一選択》

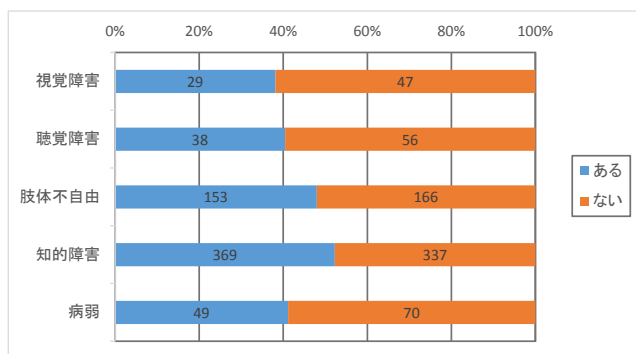
	10%以下	11～20%	21%以上	該当なし
合計	431	23	18	489
%	(44.8)	(2.4)	(1.9)	(50.9)
視覚障害	30	7	3	30
%	(42.9)	(10)	(4.3)	(42.9)
聴覚障害	27	2	1	59
%	(30.3)	(2.2)	(1.1)	(66.3)
肢体不自由	141	4	9	148
%	(46.7)	(1.3)	(3)	(49)
知的障害	322	14	6	328
%	(48.1)	(2.1)	(0.9)	(49)
病弱	45	1	10	58
%	(39.5)	(0.9)	(8.8)	(50.9)



就職を支援する施設との連携が行われていることもあり、進路が決まらない生徒の割合は「10%以下」という回答が多かった。

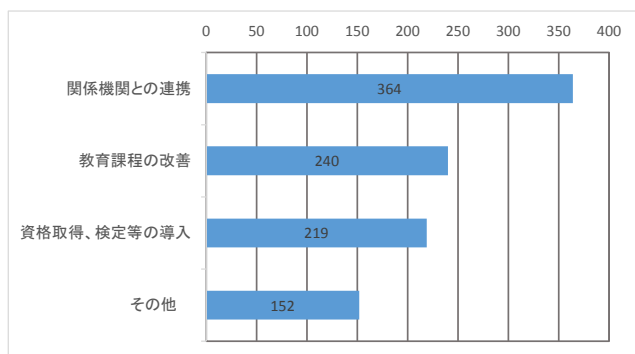
【79】平成 27 年度及び 28 年度において、就労促進のため学校として新規に導入又は改善した事項はありますか。《単一選択》

	ある	ない
合計	485	536
%	(47.5)	(52.5)
視覚障害	29	47
%	(38.2)	(61.8)
聴覚障害	38	56
%	(40.4)	(59.6)
肢体不自由	153	166
%	(48)	(52)
知的障害	369	337
%	(52.3)	(47.7)
病弱	49	70
%	(41.2)	(58.8)



【80】「ある」の場合、その内容をお答えください。《複数選択可》

	関係機関との連携	教育課程の改善	資格取得、検定等の導入	その他
合計	282	196	156	115
%	(56.9)	(39.5)	(31.5)	(23.2)
視覚障害	11	6	8	12
%	(37.9)	(20.7)	(27.6)	(41.4)
聴覚障害	18	12	14	8
%	(48.6)	(32.4)	(37.8)	(21.6)
肢体不自由	95	55	54	31
%	(60.5)	(35)	(34.4)	(19.7)
知的障害	214	154	130	86
%	(56.5)	(40.6)	(34.3)	(22.7)
病弱	26	13	13	15
%	(53.1)	(26.5)	(26.5)	(30.6)



## ■その他内容

### 【視覚障害】

進路開拓パンフレットを平成 27 年度に本校として初めて作成し、事業所や社会福祉サービス事業所を訪問し、職場や現場実習先の開拓に活用している。／進路に関する保護者個別相談／障害者合同面接会への参加／巡回指導・追指導・職場開拓等の進路支援経費の増額県要望／就労支援員の活用／実態に合わせた進路見学先の再検討／事業所向け学校説明会の実施／事業所見学促進、体験先選定／作業学習の用具／高等部 1 年次に夏期休業中に現場実習を初めて試み、6 人中 5 人が実習を行い、進路意識の啓発に取り組み、一定の成果があった。／管理職による企業訪問／課外授業（面接指導等）の実施

### 【聴覚障害】

福祉就労担当者の配置／特定子会社による実際の仕事を理解するためのワークショップの開催／従来も行なっていたが、保護者の見学会や学習会、進路情報提供（しおり）の内容を増やしたり詳しくした。／就労支援ネットワーク会議の開催／就労支援コーディネーターの講師による教職員対象の研修セミナーを実施／事業所見学促進、体験先選定／高等部 1 年次に夏期休業中に現場実習を初めて試み、6 人中 5 人が実習を行い、進路意識の啓発に取り組み、一定の成果があった。／企業向け研修会の主催／企業・施設訪問学習／管理職による企業訪問／キャリアサポートコーディネーターの導入

### 【肢体不自由】

福祉ベッドメイキング研修／福祉サービスのためのガイドブックの作成／進路担当教員の増員／進路学習・喫茶サービス／新設校なので全てが新たな試みである／新たな雇用形態の構築／職場開拓先の見直し／職場開拓に関わる職員研修会の実施／職場への定着支援の充実に力を入れている。その中で、問題（職場や家庭等）が発生すれば、職場の方や関係機関が集まってケース会議を開き、早期の解決にあたっている。そのことで信頼を得て、リピート雇用へとつながっている。／準ずる教育課程に在籍する1,2年の生徒全員が夏休みに就業体験を行った／就労支援員の活用／就労支援センターとの連絡会、保護者との学習会／就労支援アドバイザーの活用　キャリア教育の改訂／実習の期間延長／事業所見学促進、体験先選定／作業学習の授業改善／高等部で進路面談を各学年1学期にも行うことにした。中学部での職場体験を試行した。／高等部2年生での企業実習の機会を増やす／高等部1年次に夏期休業中に現場実習を初めて試み、6人中5人が実習を行い、進路意識の啓発に取り組み、一定の成果があった。／校内仕事体験、介護体験／県研究指定「キャリア教育・就労支援推進事業」／県の「産業を支えるプロジェクト」／研修会／教育課程の改善・見直しに向けた協議／企業体験実習参加機会の拡大／管理職による企業訪問／学校独自の支援団体、さくらフェローの会との連携／学校におけるアセスメントの実施／学校アドバイザーによる出前授業及び講演／外部専門員の導入／外部講師招聘の職員研修／デュアルシステム実習／デュアルシステムの導入／キャリア教育全体計画、キャリアプランの作成と授業実践

### 【知的障害】

保護者向け進路相談会、進路便りの改善／福祉合同ガイダンス／福祉ベッドメイキング研修／農事組合法時／長期休業期間中の現場実習／地元中小企業家同友会との連携／地域企業の協力を得てのデュアルシステム型の実習／地域の商工会との連携／大阪マラソンボランティア／大学への就労に向けた取り組み／他の支援学校、中学校との学習場面の共有／卒業生やその保護者の話を聞く会／卒業生の就労先へのアフターフォローにより、在校生の現場実習の受け入れを依頼。／全職員による職場開拓／生徒作品展示を通じた学校PR／生徒の希望について、何がしたいのか、何ができるのかを、ていねいに確認したこと。／生活の場（GH）の体験実習／清掃受注班／進路担当者の増員／進路指導主事の他に、進路開拓・卒業生アフターケアを専門に行う役割として「就職支援コーディネーター」を1名を設定した。／進路指導室の設置／進路指導の手引き作成／進路学習・喫茶サービス／新設校なので全てが新たな試みである／新たな進路指導開発（アセスメントを活用して地域とつなげる進路指導の研究）／職場開拓先の見直し／職場開拓支援員、施設・事業所等合同説明会／職場開拓の工夫／職場開拓に関わる職員研修会の実施／職場への定着支援の充実に力を入れている。その中で、問題（職場や家庭等）が発生すれば、職場の方や関係機関が集まってケース会議を開き、早期の解決にあたっている。そのことで信頼を得て、リピート雇用へとつながっている。／職業コースの試行／嘱託非常勤講師の導入／障害者雇用未達成事業所の学校での研修／障害者技能大会への参加／商工会との連携／就労支援員の導入／就労支援員の活用／就労支援センターとの連絡会、保護者との学習会／就労支援キャリア教育強化事業／就労コーディネーターの配置／就労コース開設に向けた取り組みと連携し職場開拓・実習受け入れ先の開拓／就労アセスメントシステムの構築／就職支援コーディネーターの配置／授業改善のための企業連携／実習内容の検討（日数、文書様式、教員間の連携等）／実習期間、時期の見直し／実習においてデュアルシステムを取り入れた。／事業所見学促進、体験先選定／作業学習の授業改善／作業学習／高等部2年生での

企業実習の機会を増やす／高等部1年次に夏期休業中に現場実習を初めて試み、6人中5人が実習を行い、進路意識の啓発に取り組み、一定の成果があった。／高3産業現場等における実習の実施時期の変更／校内仕事体験、介護体験／校内での職場実習体験を導入／校外就業体験／校外作業学習、企業の人事担当者向けの学校公開／個に応じたガイダンス機能の充実／現場実習報告会に就職アドバイザーを招いて指導していただいた／県研究指定「キャリア教育・就労支援推進事業」／県の「産業を支えるプロジェクト」／県で配置となった就労コーディネーターの活用／経済団体との連携会議／教育課程の改善・見直しに向けた協議／教育課程の改善（受託作業実習）／教育課程の改善／協力企業からの教材の提供／企業対象の学校見学会を商工課を介して実施／企業体験実習参加機会の拡大／企業窓口校の積極的なエントリー／企業参観日の実施／企業向け学校公開の実施／企業向けの学校公開・障がい者雇用推進セミナーの開催／企業の学校見学会、職業ガイダンス開催、就労支援コーディネーターの配置、実習後のアセスメント実施／企業のための学校見学会／企業・施設訪問学習／企業、事業所と連携したデュアル作業学習／管理職による企業訪問／学校独自の支援団体、さくらフェローの会との連携／学校独自での職場開拓／学校見学会の開催／学校見学会／外部専門家による授業等の指導、県のプレ検定参加／外部専門員の導入／外部人材参画授業／外部講師招聘の職員研修／外部講師（大学教授）を招聘して全教員を対象に進路学習会を開催する／課程Ⅱの生徒でも企業就労を目指す可能性がある生徒について、校内実習や職業の授業の一部（清掃）を課程Ⅰの生徒と一緒にやり教育課程の枠を越えて学習を積み重ねている。／営農実習／ワークサンプル／デュアルシステム型現場実習の導入／デュアルシステム型現場実習／アビリンピック参加種目の拡大／PTA 進路学習会

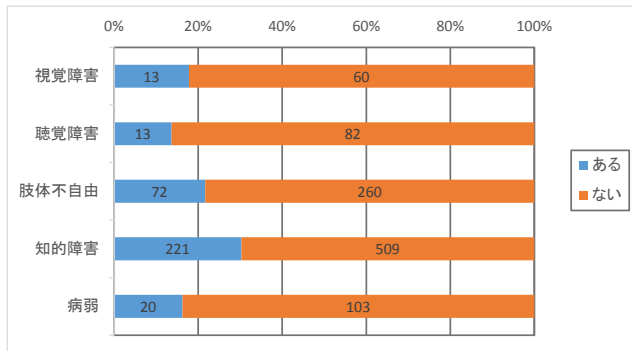
#### 【病弱】

他の支援学校、中学校との学習場面の共有／進路担当教員の増員／進路支援連携協議会の設置／進路指導の手引き作成／職場開拓先の見直し／職場開拓に関わる職員研修会の実施／就労支援員の活用／実習するための職場開拓／事業所見学促進、体験先選定／事業所の開拓／支援部（校務分掌）から進路指導に係る業務を進路指導部として独立させた。／産業現場等における実習の回数を増やした。／高等部で進路面談を各学年1学期にも行うことにした。中学部での職場体験を試行した。／高等部1年次に夏期休業中に現場実習を初めて試み、6人中5人が実習を行い、進路意識の啓発に取り組み、一定の成果があった。／高3産業現場等における実習の実施時期の変更／管理職による企業訪問



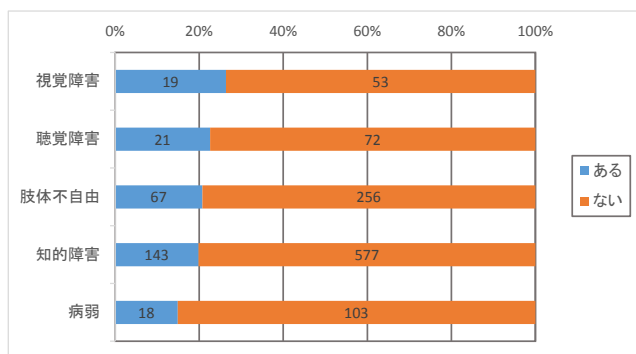
【81】 本人講座など、貴校が主体となって企画運営している事業はありますか

	ある	ない
合計	267	787
%	(25.3)	(74.7)
視覚障害	13	60
%	(17.8)	(82.2)
聴覚障害	13	82
%	(13.7)	(86.3)
肢体不自由	72	260
%	(21.7)	(78.3)
知的障害	221	509
%	(30.3)	(69.7)
病弱	20	103
%	(16.3)	(83.7)



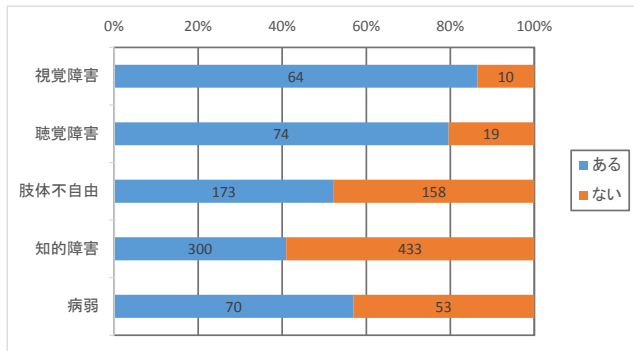
【82】社会教育団体等が主体となって企画運営している事業に貴校が場所の提供等の協力をしている例はありますか。

	ある	ない
合計	204	835
%	(19.6)	(80.4)
視覚障害	19	53
%	(26.4)	(73.6)
聴覚障害	21	72
%	(22.6)	(77.4)
肢体不自由	67	256
%	(20.7)	(79.3)
知的障害	143	577
%	(19.9)	(80.1)
病弱	18	103
%	(14.9)	(85.1)



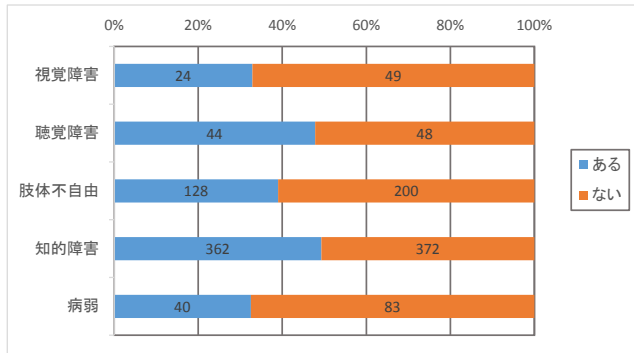
【83】資格（国家資格、英検等）習得に向けた取り組みを実施していますか。

	ある	ない
合計	526	531
%	(49.8)	(50.2)
視覚障害	64	10
%	(86.5)	(13.5)
聴覚障害	74	19
%	(79.6)	(20.4)
肢体不自由	173	158
%	(52.3)	(47.7)
知的障害	300	433
%	(40.9)	(59.1)
病弱	70	53
%	(56.9)	(43.1)



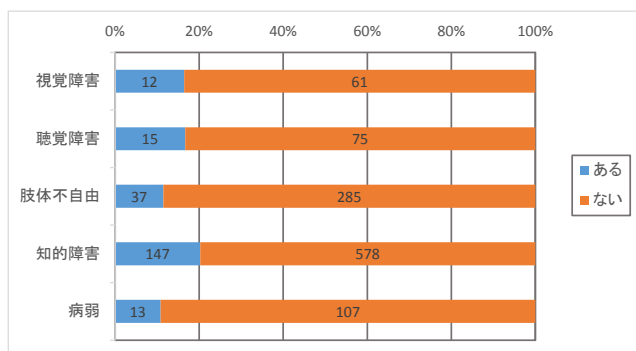
【84】各都道府県単位の各種検定（清掃、ワープロ等）を実施していますか。

	ある	ない
合計	449	603
%	(42.7)	(57.3)
視覚障害	24	49
%	(32.9)	(67.1)
聴覚障害	44	48
%	(47.8)	(52.2)
肢体不自由	128	200
%	(39)	(61)
知的障害	362	372
%	(49.3)	(50.7)
病弱	40	83
%	(32.5)	(67.5)



【85】各学校単位の各種検定（清掃、ワープロ等）を実施していますか。

	ある	ない
合計	178	865
%	(17.1)	(82.9)
視覚障害	12	61
%	(16.4)	(83.6)
聴覚障害	15	75
%	(16.7)	(83.3)
肢体不自由	37	285
%	(11.5)	(88.5)
知的障害	147	578
%	(20.3)	(79.7)
病弱	13	107
%	(10.8)	(89.2)



さいごに

就労支援センターやハローワークだけではなく、企業就労先の開拓を支援する機関等との連携が年々強くなっている。

資格や各種検定については、取り組みの浸透が必要である。

**【本集計に関する特記事項】**

※1校で「障害種別」を複数回答されている為、各障害種別の「合計」と、「回答校数合計」の数量は一致しません。

※複数回答されている設問のため、各設問の「合計」と、「回答校数合計」の数量は異なります。